

1 単元名 主張を書こう

2 目標

- (1) 具体的な根拠を示して意見文を書くことに意欲的に取り組もうとしている。
- (2) 相手を説得するために根拠を明確にして意見を述べるができる。
- (3) 自分の主張を支える根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方を工夫することができる。
- (4) 説得力のある文章にするために、適切な語句の選択や言葉遣いができる。

3 指導にあたって

(1) 教材観

1年生の「根拠を示して書こう」では、自らの主張の根拠を示して書く技術の学習を、2年生の「意見を書こう」では、自分が賛成できない他者の意見に対し、その根拠を検証して反論する技術を身に付けることをそれぞれ目的としていた。本教材では応用段階として「意見が異なり対立するような問題」について、反対意見に対する反論を加えながら根拠を明確にして自らの意見を主張する方法を学ぶことをねらいとしている。

自分の意見を持つこと、また、意見をもっているそれを上手に表現することを苦手とする生徒は多い。「書く」ことは、自分の中にある考えを整理し、適切かつ明確に表現するためにも欠かせない作業である。本教材は、明確な根拠をもった意見文を書くための方法を細かく順を追って学ぶことで、自分の意見を適切に表現できる力を養うことができるものであると考える。また、「意見が異なり対立するような問題」を提示し、反すうしたり意見交換をしたりする活動は、自分の考えをもち、表現しなくてはならない必然性を生み出すため、生徒にとってよい学習の機会にもなると考える。

(2) 生徒の実態

生徒の実態調査（平成*年*月*日実施 第3学年*組 *人）

質問	回答	
1 文章を書くことは得意ですか。	得意 *人 どちらかという得意 *人 どちらかという苦手 *人 苦手 *人	楽しいから 書くことが好き 自分の考えをまとめられるから 文章の構成が覚えられるから うまく文章にまとめられない 考えを言葉で表現できない 説得する文章が難しい 内容が考えられない 文章を考えるのが嫌い 長い文章が書けない 分かりやすく書けない
2 説得力のある文章にするにはどのようなことが必要ですか。	理由を書く 言いたいことを分かりやすくまとめる 常体で書く 具体例や経験を入れて書く 根拠をしっかりと書く 最初に主張を書く 表現技法を使う 一文を短くして分かりやすくする 会話力をつける	
3 話し合いの場面で自分と反対の意見が出た場合どうしますか。	もう一度意見を出す *人 相手の意見に従う *人	相手の意見を受け入れてもう一度自分の意見を言う 反対意見を参考にして新しい意見を出す どちらの意見も尊重した話し合いを続ける 相手の発言の欠点を指摘する 自分の意見を貫く 二つの意見を比べてみる 多数決で多かったら相手の意見にする 相手の意見の方がよいことが多い

調査結果を見ると、書くことを苦手とする生徒の主な理由として、「話題が見つからない、表現や構成などの書き方に自信がない」ということが挙げられる。しかし、本学級の生徒で「面倒・嫌い」という理由を挙げた生徒はいなかった。授業や定期テストでの、テーマを与えた200字程度の文章を書かせる問題等でも、ほとんどの生徒が字数分の文章は書くことができている。生徒の実態に合った課題を提示し、基本の文章の型を身に付けさせることで、苦手意識を克服できるのではないかと考える。

また、話し合いで反対意見が出た場合、「もう一度意見を出す」と回答した生徒の多くが「相手の意見を受け入れる」、「相手の意見を参考にする」など、相手の意見をよく聞くことを心がけていることが分かった。

(3) 指導観

私たちの生活の中で様々な意見が対立することがある。本来、意見とは対立するものであり、時には自分とは反対の意見に対して反論しなくてはならないこともある。これから生徒たちが社会の中で生きていくためには、自分自身の考えをしっかりともち、必要に応じて主張することができる力が重要である。本教材での最重要ポイントは、「自分の主張に対する反論を考え、そこから主張を再検討する」ところにある。現段階での生徒は、自分の意見を相手に伝えるとき、主張や根拠を客観的に見直すという作業があまりできていないように感じる。説得力のある意見文を書くためには、自分の主張を客観的に再検討することができるようになることが重要である。そのためにも、話し合い活動を取り入れ、グループでの根拠の検討や、意見の対立するグループとの意見交換等、客観的な見方を迫られる場を作っていきたい。生徒たちにとって、自分の意見を客観的にとらえ、それを踏まえて意見を交換するという話し合い活動は、今までほとんど経験したことのない学習である。その際、話し合いに上手く参加できない生徒や、支援が必要な生徒に対して細かな支援をするためにも、TTを取り入れて丁寧な指導を心がけて行きたい。また、意見文の構成の例を提示して型を覚えさせることや、推敲の観点の再確認等の基本的事項も、各時間の中でしっかりと押さえていきたい。

(4) テーマとの関連

グループで根拠を検討したり、反対の立場のグループと意見を交換したりする活動を取り入れることで、より説得力のある意見文を書く力を身に付けさせる。

4 学習計画（7時間取り扱い）

次	時間	学習内容	観点別項目				評価規準
			関	話	書	言	
1	1	教科書を読んで、根拠を挙げる順序と意見文の構成を確認する。	○				説得力のある根拠を挙げるための手順と、意見文の構成を確認し、意見文を書く活動に意欲的に取り組もうとしている。
2	2	テーマに対する自分の立場を決め、根拠を考える。			○		自分の立場を決めて、根拠を複数挙げている。
	3	グループで根拠を検討する。			○		複数の根拠の中から、より説得力のある根拠を選び出している。
	4	反対側の根拠に対する反すうと自分の挙げた根拠に対する反すうを考える。			○		双方の立場に立って、自分の根拠が適切かどうか検討している。
	⑤ (本時)	反対の立場のグループと意見交換することを通して、自分の主張を再検討する。		○			相手の意見を正しく理解したうえで、自分の根拠を明確にして意見交換を行い、その根拠を検討している。
	6	ワークシートやメモをもとに意見文を書く。			○		構成を考えながら、根拠を明らかにして、意見文を書いている。
3	7	グループで意見文を読み合い、相互評価する。				○	複数の意見文を読んで相互評価し、よいところを見つけて自分の表現に役立てている。

5 本時の学習

(1) 目標

反対の立場の意見を聞いたり、反すうしたりすることを通して自分のものの見方や考え方を深めたり表現したりすることができる。

(2) 準備・資料

意見文の構成を書いた掲示物・ワークシート・タイマー・ヘルプカード・意見交換の進め方「大討論会マニュアル」（グループ用・掲示用）

(3) 展開

※ 本時における話し合い活動（下線部）

学習内容及び活動	学習形態	指導と評価（Eは評価）			
		T 1	T 2		
1 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">踊る 大討論会 ～相手の口を封鎖せよ～</div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題を提示し、全員で確認することで学習の見通しをもてるようにする。 本時の活動は、討論がメインなのではなく、討論を通して自分の根拠を再検討することが目的であることを理解させる。 			
2 意見文の構成を確認する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 前回までの活動を振り返り、本時の活動内容が意見文の構成のどこに当たるかを確認する。 意見文の構成を掲示し、視覚的にも理解しやすいようにする。 			
3 意見交換の進め方を確認する。 (1) 意見交換の流れの説明 (2) ヘルプカードの説明 (3) 教師による参考例	一斉	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自身に自分が賛成派か反対派かを確認する。 意見交換の中で1回だけ教師の協力を得られるヘルプカードを各グループに1枚ずつ用意する。 生徒とは違うテーマで、教師がそれぞれの立場に立って意見交換の簡単な例を見せる。 賛成派の意見を述べる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 意見交換の進め方の掲示物をいつでも確認できるよう、掲示する。 反対派の意見を述べる。 </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身に自分が賛成派か反対派かを確認する。 意見交換の中で1回だけ教師の協力を得られるヘルプカードを各グループに1枚ずつ用意する。 生徒とは違うテーマで、教師がそれぞれの立場に立って意見交換の簡単な例を見せる。 賛成派の意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換の進め方の掲示物をいつでも確認できるよう、掲示する。 反対派の意見を述べる。
<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身に自分が賛成派か反対派かを確認する。 意見交換の中で1回だけ教師の協力を得られるヘルプカードを各グループに1枚ずつ用意する。 生徒とは違うテーマで、教師がそれぞれの立場に立って意見交換の簡単な例を見せる。 賛成派の意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換の進め方の掲示物をいつでも確認できるよう、掲示する。 反対派の意見を述べる。 				
4 <u>意見交換をして、根拠の再検討をする。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ A側立論 1分 ・ B側立論 1分 ・ B側反対尋問 3分 ・ A側反対尋問 3分 ・ 自由論戦 4分 ・ 作戦タイム 2分 ・ A側最終弁論 1分 ・ B側最終弁論 1分 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> 前時で分けたグループの組み合わせで、メンバーを半分ずつ入れ替える。また、グループに配った「大討論会マニュアル」を見て、約束を守って活動するよう確認する。 相手の意見を理解しようとしながら聞くことと合わせて、メモをとりながら相手の意見を聞くよう、再度確認する。 1～3班の様子を見る。 4～6班の様子を見る。 意見交換が滞っているグループがないか、なかなか発言できずにいる生徒がいないか等に注意して様子を見回す。 発言できずにいる生徒には、相手が言っていることを正しく理解しているかを確認し、ワークシートに書いてあるどの意見を発言したらよいか等を助言する。 			
		E 意見交換の内容に基づき、自分の主張を支える根拠が適切かどうか検討している。 (観察・ワークシート：話・聞)			
5 <u>意見交換の振り返りをする。</u> <u>・根拠の評価をする。</u> (評価) A…相手から反論されなかった。 B…反論されたが、討論の中で相手を納得させることができた。 C…相手に反論されたままで終わってしまった。	個人 グループ	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換をした結果から、自分たちが挙げた根拠を評価させる。 評価したワークシートをグループ内で見比べ、意見文の中に使う根拠に適切なものはどれか、また、考え直すべき根拠がないかを簡単に確認させ、次時の学習につなげる。 生徒全体の大まかな評価を把握する。 評価をなかなか付けれない生徒の支援を中心に行う。 			
6 次時の学習を知る。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 次時では、本時までの活動をもとに、意見文を書く活動に入ることを伝える。 			